

# 沖縄残波岬ロイヤルホテル プレシヤスホール

Okinawa Zanpamisaki Royal Hotel PRECIOUS HALL

No. 07-007-2010作成  
新築  
ホテル

発注者	大和リゾート株式会社	カテゴリー				
設計・監理	鴻池組東京本店一級建築士事務所 KONOIKE CONSTRUCTION CO.,LTD	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	株式会社鴻池組 九州支店	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 沖縄固有の地域性に配慮したコンベンションホール

### 設計主旨

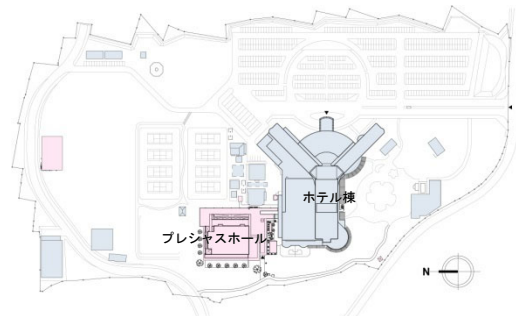
本計画は、沖縄の代表的な景勝地である残波岬に建ち、目の前にマリンスプーの海を臨む既存のリゾートホテルに婚礼・宴会・カンファレンスの機能を拡大させる目的のもと、コンベンションホールを増築する計画である。ホールは最大1000㎡、600名収容可能な規模となっており、分割利用やテラスとの一体利用が可能で、沖縄の豊かな自然を取り込んだ空間構成となっている。

また、最先端の音響・演出照明設備を備え、国際会議、各種学会等のカンファレンス会場として利用できる施設であり、オープンキッチンを併設することにより、各種パーティーにも対応できる、バリエーションに富んだホールとなっている。

外観は白を基調とした色彩とし、沖縄の強い日差しを遮る大きな庇や、開放性の高いルーバーなどで構成され、亜熱帯気候の開放的な風土表現を現代のデザインと融合させることを目指した。



外観（奥は既存ホテル棟）



配置図



プレシヤスホール



ホールからテラスを臨む



屋内通路

### 開放的な中間領域の形成

沖縄独特の開放感のある雰囲気を実現できるように、ホールに面する開口部には折れ戸を採用し、テラスと一体的に利用できるように計画した。

また、ロビーに続く屋内通路は、青い空と緑豊かな亜熱帯植物が大きな開口を通して室内空間に溶け込み、リゾート感のあるパブリック空間を生み出している。

### 地域性のある素材

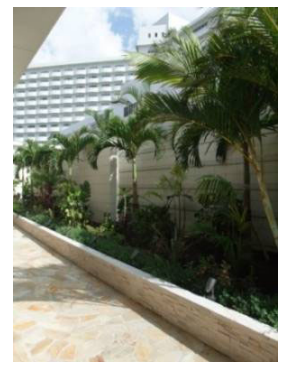
建物入口には魔除けのシーサーを配し、外構には穴あきブロックによるスクリーン、舗装材には琉球石灰岩といった風土に根ざした素材を採用し、沖縄独特のリゾート感を演出した。



風土に根ざした素材

### 外構緑化

沖縄らしさを求め、複数の植物を混植することで、亜熱帯植物のにぎやかな魅力を引き出す植栽計画とした。また、既存のガジュマルを活かす等、建物内に豊かな緑を取り込んだ外構計画とした。



豊かな緑

### 熱負荷の軽減

跳ね出しの大きな庇を採用することにより建物内への日射を抑制している。また、沖縄の伝統的民家に見られるアマハジ（雨端）のような変化に富んだ陰影を作り出す要素ともなっており、建物へ魅力的な印象を与えている。



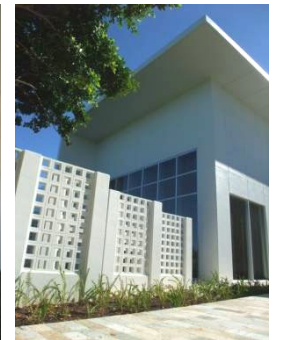
アプローチ



中庭



ホール



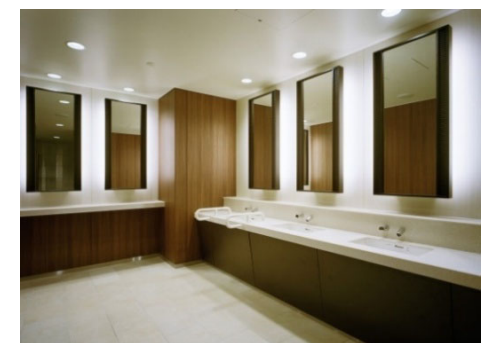
大庇

### 電気・水の消費抑制

トイレの照明は人感センサーによるON・OFFにて制御を行い、衛生器具については自動洗浄・自動水栓等の節水型器具を採用し、省エネや水資源の保護を図っている。

### 設備システムの省エネ化

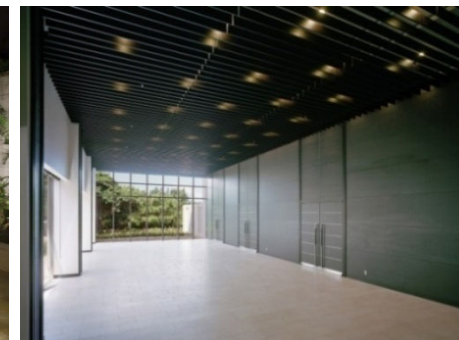
屋内通路、ロビー、外構の照明器具には電球色のLED光源を積極的に採用し、省エネとメンテナンスに配慮した。また、アジアリゾートの演出を考慮したエコロジカルな照明計画とした。



トイレ



屋内通路



ロビー



テラス

### 建物データ

所在地	沖縄県中頭郡読谷村
竣工年	2010年
敷地面積	111,519㎡
延床面積	3,526㎡（増築部分）
構造	RC造一部S造（増築部分）
階数	地上2階（増築部分）

### 設計担当者

統括：島崎清秀／建築：尾畑毅、北峰健一／構造：柿田芳久／設備：林宣夫

### 主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（外構緑化）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（地域性のある素材）
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（豊かな中間領域の形成）
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制（庇の深い外装）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（LED照明）
- LR2. 1. 水資源保護（トイレにおける節水型機器）